

「もんじゅ」撤退、再稼働押し付けるな

福井県委員会 経産・文科・総務省と交渉

福井県委員会は10日、原子力行政について経産、文科、総務の3省に11項目の要望を掲げて交渉しました(写真下。「赤旗」11日付記事=右=参照)。佐藤正雄県議、敦賀市、小浜市、若狭町などの市町議ら9人が参加。井上哲士参院議員が同席しました。主要な要望は次の通りです。

■経産省

- ①原発から撤退
- ②再稼働おしつけはやめよ
 - ・福井県が指摘し、暫定基準を求めている問題(地震、高齢年化、浜岡停止)について国の考え方を示されたい
 - ・ストレステストは、独立した規制機関をつくり新体制のもとできちんと行うべき
 - ・原発再稼働押し付けでなく、揚水発電所のフル稼働などに取り組み
- ③危険な原発をやめること



- ・核燃料サイクル計画の廃止
- ・プルサーマル発電は実施しないこと
- ・活断層上の原発廃止を
- ・老朽原発の廃止を。データの検証と公開を
- ④新增設は中止を
- ⑤教育現場での「原発安全神話」にもとづく教育研修は見直せ

- ⑥地域防災計画について
 - ・最大の原発集中県である福井県は県全域を原子力防災計画の範囲となるような国としての指針を示すこと
 - ・そのため来年度に予算措置を講じること。年度内にも対応できる支援策を
 - ・EPZは原発から最低50キロ程度は範囲内とすること。原発立地県はその全域を計画の対象とすること。

■文科省

- ①原発事故時の防災体制の強化。県民+「通勤・通学・観光客」に見合うヨウ素材を自治体庁舎、学校・公民館など避難施設に重複配置を

- ②高速増殖炉「もんじゅ」について
 - ・「もんじゅ」にはすでに1兆円も投じ、停止中も1日5500万円の維持管理費がかかる。気の遠くなる税金のムダづかいをやめ、「もんじゅ」は廃止に

- ③エネルギー環境教育について(略)

■総務省

- ①地域防災計画について(経産省と同様)

- ②消防について
 - ・消防広域化は今回の事故を受け見直せ。原発立地地域の消防力の低下はやめよ
 - ・原発災害に備え、「中性子線をカットできる防護服」「よう素材」、線量計、内部被ばく防止の呼吸器などを、広域応援態勢をとる原発立地県内のすべての消防本部に配備すること

「もんじゅ」など撤退要求
福井の共産党、政府に迫る

県内に全国の原発の4分の1にあたる15基を擁え、原発撤退を求めた原発の再稼働中止を掲げる日本共産党福井県

ル計画の中止、防災計画の見直しなどを求め、経済産業省、文科省、総務省に申し入れました。佐藤正雄

福井県議と敦賀市、小浜市、若狭町などの党市町議ら9人が、要望書を手渡しました。井上哲士参院議員が同席しました。

県内に立地する敦賀原発(日本原子力発電)、美浜原発(関西電力)、「もんじゅ」(日本原子力研究開発機構)は、1キロ以内の至近距離に活断層があり、

原発が並ぶ若狭湾は、大津波に襲われる恐れがあることが最近の知見で明らかにされました。

で決めた。これが住民の声だと訴えました。佐藤県議は、原子炉格納容器の老朽さを示す脆性(せいせい)遷移温度が高くなっていることや原発事故で耐震設計指針そのものが見直されていることなどを示しながら、運転開始から30年を超え

は、モニタリングを充実させ10月をめどに目安となる考え方をまとめること答えました。

原発撤退へ近畿・福井が力を合わせましょう。近畿からも参加を

8. 20原発ゼロめざす福井集会・行進

20日(土)PM1:30開会 記念講演: 吉井英勝衆院議員

福井市フェニックス・プラザ小ホール

(福井市田原1-13-6 JR福井駅より徒歩20~30分)

13:30 開会 各分野からの報告
近畿から連帯あいさつ
14:10 記念講演
15:10 駅前までパレード

主催: 原発問題住民運動福井県連絡会

東日本大震災5ヵ月 原発ゼロへ宣伝・署名、デモ

東日本大震災から5ヵ月の11日、近畿各地や福井で原発ゼロ、若狭原発撤退へ宣伝・署名、デモが多彩に取り組みられました。党大阪府委員会は難波駅前前で約30人がうちわやビラを配って原発撤退署名を呼びかけ、京都府委員会は四条河原町で、兵庫県委員会は三宮駅前で、奈良県委員会は近鉄奈良駅前前で宣伝しました。

全労連近畿ブロックは、若狭原発群の停止・廃炉を求める共同闘争に取り組み、神戸市元町商店街東口で12単産、37人が参加して宣伝・署名。滋賀県では県民要求連絡会などが県庁周辺をデモし、「原発で琵琶湖を汚すな」などと訴えました(写真)。



「提言」紙芝居 党奈良県委、集いで活用

日本共産党奈良県委員会は、原発からの撤退を求める党の提言の紙芝居を各種の集会で活用し、対話をすすめています。紙芝居は同提言や「しんぶん赤旗」の記事を再構成。16枚組で30セット以上作成。「分かりやすい」と好評です。

奈良市の介護職場の党支部で1日に開かれた集いでは、山村さちほ県議が紙芝居を使って他にはない原発事故の異質の危険や、「安全神話」を振りまき原発を推進してきたのはなぜか、などと話しました。参加者からは「東電に賠償するお金があるのか」「復興に消費税増税はやむをえないのか」などの疑問が出され、山村県議は「原発でもうけた大銀行、大手ゼネコンなどに責任をとらせずに、税金で肩代わりはおかしい。復興財源も大企業の内部留保の活用を」と回答。「勉強になった」などの声が返ってきました。(「赤旗」近畿版2日付より)

原発問題 近畿・福井の主な動き(「赤旗」、各紙の報道などから。*は行政などの動き)

- 7/21, 22 * 関電の高浜原発4号機が21日から、大飯原発4号機が22日から定期検査入り。関電原発11基のうち7基が停止
 - * 関経連など関西の経済団体が首相官邸を訪ね、定期検査を終えた原発の速やかな再稼働を要請
- 7/22 京都革新懇が関電京都支店長宛に原発撤退を申し入れ
- 7/23 京都・龍谷大の里山学術センターが「脱原発と再生エネルギー」をテーマに講演・討論会(450人)。学長があいさつ
 - 和歌山・北部地区委員会が山下芳生参院議員を招き学習会「原発からの撤退、自然エネルギーの本格導入を」を開催
- 7/26 福井「県政をつくる会」が県に原発撤退、自然エネルギーへの転換を要請
 - 滋賀県委員会が県農協中央会と懇談。「放射能検査に国が責任を」の要望
- 7/28 若狭原発撤退へ近畿・福井の党・地方議員が交流会議(党中央委員会主催。党京都府委員会事務所で50人)
 - * 西川福井県知事が、原発再稼働には福島原発事故の知見を反映した暫定的な安全基準が必要との見解を改めて表明。ストレステストについては「どういふ発想で行うか分からない」とのべた
- 7/30 大阪「原発ゼロの会準備会」が府民集会(3000人)。宮本岳志衆院議員があいさつ、岸和田市長がメッセージ
- 8/1 * 福井・敦賀市長が敦賀原発3、4号機の増設計画について「絶対必要」とできるだけ早く本体着工すべきと表明
- 8/2 「原発の驚異から生命と琵琶湖を守る」と、福井原発(7基)の再稼働禁止を求め、滋賀の168人が仮処分申請
- 8/3 * 高木義明文科相が福井県敦賀市の「もんじゅ」を大臣就任後初めて視察
 - 和歌山県議団が原発・震災で森林組合と懇談
- 8/4 奈良革新懇が「もんじゅ」見学ツアー、党議員・住職とも懇談
- 8/5 革新懇近畿ブロックが関電本店に原発ゼロ、低エネルギー社会実現を求め要請
- 8/7 京都・丹後、与謝両地区委員会が穀田恵二・国対委員長招き原発講演会(150人)
- 8/10 福井県委員会が経産、文科、総務各省と原発撤退で交渉
 - 和歌山県議団が東日本大震災、原発事故で県労連と懇談